

地域に根差す、足利赤十字病院の広報誌

風流鱗

—かぜながすくじら—



ご自由に
お持ち下さい
Take Free

2023.1 Vol.40



Organization Accredited
by Joint Commission International



●新年のご挨拶（室久俊光 院長）

●診療部長挨拶（第一脳神経外科部長 柴尾俊輔先生）

●診療科紹介（眼科）

●内科 椎名裕城先生

日本腎臓学会東部学術大会 優秀演題賞受賞

●佐野南中学校応援メッセージ寄贈

TOPICS

- 中華医事科技大学
交流協定更新
- 大規模災害訓練
- 世界糖尿病デーイベント
- 野球部活動報告
- 活動報告&お知らせ
- 栄養課の窓
- 薬剤部の豆知識

新年のご挨拶



2023年 新年明けましておめでとうございます。

2023年 新年明けましておめでとうございます。

3年ぶりに行動制限のない年末年始となり旅行や初詣など行かれた方も多かったのではないでしょうか。市内も大分賑わいを取り戻した感があります。このような対面でのコミュニケーションが重要であることは論を待ちませんが、その影響が現在新型コロナ第8波の感染状況にあり高齢者を中心に入院患者さんや亡くなる患者さんが高止まりしています。政府は感染対策と経済活動の両立を重要視しておりそれは重要な事だと思います。しかしながら医療機関においては疾病を抱えた患者さんが対象ですから院内感染やクラスター発生は防がなければならず今はまだ厳重な感染対策を継続する必要があります。入院患者さんへの面会制限、院内でのマスク着用や手指消毒、そして体温測定など感染対策にはいましばらくご理解・ご協力をお願いいたします。

今年は今まで準備していた事業が結実し、飛躍する年にしたいと思います。まず2月に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審します。当院は国際的病院機能評価認証であるJCI(Joint Commission International)の認定を受けていますが今回は日本基準での審査となります。日本の優れた医療分野を取り入れさらなる診療の質と医療安全の

向上に取り組みます。また稼働が遅れおりましたサイバーナイフ治療が始まる予定です。サイバーナイフは多方向から放射線を照射する事により治療効果の向上と副作用の軽減を実現した最新鋭の装置であり栃木県では2台目の設置となります。そして2024年4月から開始される医師の働き方改革への対応も今年完成させなければならない事の一つです。この制

度では医師の時間外労働は原則年960時間(80時間/月)に制限されます。医療の質を維持しながらも医師の労働時間の短縮を行うと言う一見矛盾した取り組みですが、今後日本では労働者人口の減少が予測されています。医療については高齢化による医療需要の増加がありしばらくの間需要は増えるにもかかわらずそれを担う医療者は減ることが予想されています。働き方改革では患者さん、ご家族、市民の皆さんとのさまざまな協力が必要です。今後の医療の持続性を維持するために必要な事ですのでぜひご理解頂きたいと思います。

今年の干支は「癸・卯(みづのと・う)」、今までの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年だとされています。当院は今年も両毛地域の急性期を担う基幹病院としてさらに頑張って参りますのでご支援を頂ければ幸いです。

末筆ではございますが一刻も早く新型コロナが収束し令和5年が皆さまにとって良い年となる事を心からお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



院長 室久 俊光



就任のご挨拶

第一脳神経外科部長

頭蓋底外科医として当院で何ができるか?

この度、令和4年10月に第一脳神経外科部長職を拝命いたしました。

私は慶應義塾大学脳神経外科で頭蓋底外科を自分のメインの専門分野として勉強してきました。頭蓋底は「頭蓋の底」にあたる深く狭い場所で、その場所にできる病変は大事な神経や血管などの構造物に囲まれています。頭蓋底外科では、このように難しい場所にできた病変を安全に手術しなければならず、脳神経外科のなかで最も高度な知識と技術を要する分野と考えられています。

このような背景を持つ自分が、地域の中核病院である足利赤十字病院でできることは何かを考えました。頭蓋底外科における高度な技術、知識を脳卒中の外科手術、頭部外傷の手術、脳機能外科手術など地域病院の脳神経外科でポピュラーな疾患の手術に応用することでより質の高い手術を提供できるのではないかと考え、様々な取り組みを試みてきました。ここではその中の主なものを紹介したいと思います。

①脳卒中診療体制の整備

地域の中核病院としての役割を果たすために脳卒中診療は非常に重要です。今年度は院内に「脳卒中相談窓口」を設置し、脳卒中後遺症に不安を抱える患者さんやその家族に応えられる体制を作りました。それにより、これまでの一次脳卒中センター施設(PSC、24時間365日tPA療法が行えると認定された病院)から、PSCコア施設(24時間365日血栓回収療法が行えると認定された病院)という一段階上の施設認定を受けることができ、それに伴い脳卒中の手術件数も増加傾向にあります。その中には頭蓋底手術の知識、技術を応用した手術も含まれ自分の強みが生かされていると実感しています。

②専門性の高い診療分野の導入

これまで当科が得意であった診療分野を導入し、患者さんの診療範囲を広げたいという考えで取り組んでいます。その中でも私が専門としている頭蓋底外科手術の体制づくりを取り組みの中心としてきました。術前画像を3D再構成して行う3Dシミュレーション、術中にリアルタイムに病変の場所を把握するナビゲーションシステム、

術中に脳神経機能をモニターする神経モニタリング、術野の死角となる部分を観察・操作する内視鏡、術野に3Dシミュレーション画像を投影する拡張現実(AR: augmented reality)等、頭蓋底手術をより安全に行なうための手術支援機器を整えました。おかげさまで頭蓋底手術件数も徐々に増加傾向となっています。今後はサイバーナイフが当院に導入される予定であり、放射線治療をうまく組み合わせた頭蓋底腫瘍の治療も可能となり、より多くの患者様に貢献できると考えています。

③若手医師への教育体制

若手医師の知識・技術をレベルアップさせることで、より安心できる医療を患者さんに提供できると考え、取り組んでおります。脳神経外科では、研修医に対してバイパスハンズオンセミナー、脳卒中勉強会、ブタ脳解剖セミナーなどを主催しました。研修医の先生が脳神経外科の救急疾患に対応でき、また脳神経外科手術に触れていたことで、将来の有望な脳神経外科医が生まれると信じています。また、脳神経外科の若手医師に対しても、カンファレンスや手術における知識や・技術の習得、そして学会発表、論文発表を行なうことで、より質の高い治療につながると考えています。

まだまだ若輩者ではありますが、地域の患者様に貢献できるよう全力を尽くしていく所存でございます。何卒よろしくお願い致します。



脳神経外科 柴尾 俊輔

診療科紹介

眼科

Ophthalmology

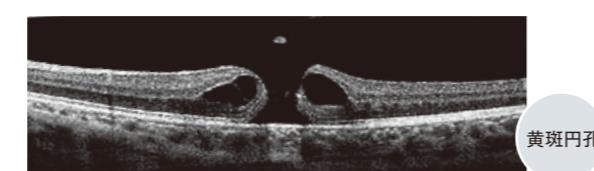
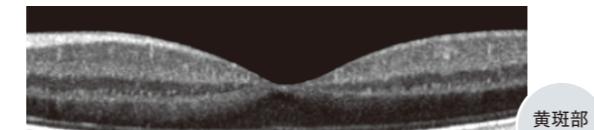
2022年4月より、足利赤十字病院眼科に赴任いたしました坂東 誠と申します。

私は昨年まで、獨協医科大学にて白内障手術・網膜硝子体手術・角膜移植術・加齢黄斑変性治療を中心に診療をさせて頂いておりました。

現在、当科は常勤医1名で診療・手術をさせて頂いております。今年度より、当科では白内障手術の他に、黄斑上膜・黄斑円孔や眼内レンズ(IOL)強膜内固定術等の手術も行っております。今回は、黄斑上膜・黄斑円孔・水晶体/IOL脱臼についてご紹介させて頂きたいと思います。

黄斑上膜・黄斑円孔とは

後部硝子体剥離という加齢現象をきっかけに発症する疾患です。網膜の最も重要な黄斑部に、膜や円孔が発生することで、黄斑部が変形し、歪み・視力低下などの症状を自覚するようになる疾患です。発症から時間が経ってしまうと、手術をしても自覚症状の改善が困難な場合があるため、視機能への影響を認める場合は早めの手術治療が望ましい疾患です。当院では4泊5日での硝子体手術を行っております。



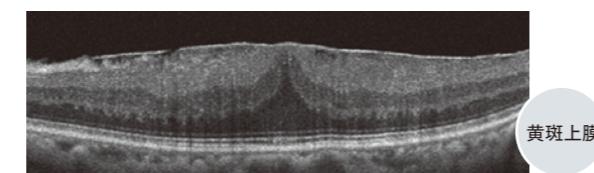
水晶体/IOL脱臼とは

加齢や打撲、マルファン症候群などの基礎疾患の影響で、水晶体やIOLを支えているZinn小帯が断裂することにより、水晶体やIOLが傾いてしまったり、落下してしまう疾患です。当院では強膜内固定術(IOLの支持部を強膜内に直接固定する方法)にて手術を行っております。

歪みや視力低下などの自覚症状がございましたら、是非一度当科の受診をご検討ください。また、今後は極小切開縫内障手術(MIGS)にも対応できるように、現在準備を行っております。

より良いquality of vision(QOV)を提供できますように努めてまいります。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



内科 椎名裕城先生が 第52回日本腎臓学会東部学術大会で 優秀演題賞を受賞しました

内科の椎名裕城先生が第52回日本腎臓学会東部学術大会で優秀演題賞を受賞しました。

椎名先生はC3腎症とLight chain proximal tubulopathyにBence Jones Protein型のM蛋白血症を認めた1例を報告しました。この表彰は453演題中8演題トップ2%に入る表彰であり通常の業務に加えて、日頃の研究の成果が評価されたものです。

椎名裕城先生のコメント

C3腎症の症例の半数程度にM蛋白血症が関与するとの報告がありますが、Bence Jones Protein型のM蛋白血症に関連したC3腎症の症例はほとんど報告がないのが実情です。その理由はまだ明らかにされておらず、この症例が知見の足掛かりになることを願っています。またLight chain proximal tubulopathyは病理所見上、見逃されやすい疾患であることが分かっておりますが、本症例の経過でステロイド感受性があることが示唆されたため、同病態の正しい診断が臨床上重要であるとする非常に良い教訓となりました。



▲椎名裕城先生(右)と室久俊光院長(左)

佐野南中学校の皆さんより 当院職員への応援メッセージを いただきました

応援メッセージを受け取り
笑顔を見せる室久俊光院長(右)と
勅使河原由江看護部長(左)



佐野市立南中学校の皆さんより新型コロナウイルス感染症の対応にあたる当院職員への応援メッセージをいただきました。

皆さまの温かいお言葉は、当院職員の励みになっております。職員一同、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束の目途は立っておりませんが、皆さまの健康を守るために、これからも職員一同努めて参ります。

感謝します。治療や感染拡大防止に従事されている方に。
願います。罹患された方の早い完治を。
努めます。終息を目指した行動に。

佐野市立南中学校生徒会
生徒会長: 田中



寄贈された応援メッセージ▶



活動報告&お知らせ

Report & Information square

お知らせ 台湾 中華醫事科技大学との人事交流協定を更新しました

10月17日(月)に台湾の中華醫事科技大学との人事交流協定を更新しました。

この協定は、施設間交流、講師派遣、学生インセンティブ等による相互医学向上と人事交流を目的としたもので、2015年7月に同大学と協定を締結しています。これまでに看護実習生18名、事務実習生2名を受入れていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、令和2年より学生の受入れを一時中断していました。

当日は、当院内で調印式を行い、室久俊光院長と孫逸民校長により協定書が交わされました。室久院長は、「当院での経験が実習生にとって有益となるよう、病院全体でサポートしていきたい。また、実習に携わることで当院職員も業務を改めて見直すことができる。この貴重な経験を職員自身のスキルアップに



つながることにも期待したい。」としています。

今後は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑みて受入れを行っていく予定です。

活動報告 震度6強を想定した大規模災害訓練を実施しました



12月3日(土)に令和4年度の大規模災害訓練を実施しました。今回の想定は、足利市を震源として震度6強の直下型地震が発生したことを受け、病院内に災害対策本部を設置するというものです。災害対策本部は、災害が発生した際、院内外の被害状況を迅速に把握し、傷病者の受け入れや災害復旧、被災地支援などの方針を決定して指揮を執る役割を果たします。

緊迫した雰囲気の中で訓練が開始されると、室久俊光院長指示で机や資機材が次々に会議室へと運び込まれ、瞬く間に災害対策本部が設置されました。

本部には、院内各部署からの被害状況報告、行政から得た市内の被害状況や、非番職員の安否情報などの報告が寄せられ、災害対策本部長を務める室久院長が、集められた情報を基に外来診療停止の判断、非常態勢への切り替えと正面玄関へのトリアージエリア設置を指示したところで今回の訓練は終了となっています。その後行われた反省会では、本部立ち上げの流れや一連の初動対応が検証され、問題点や課題の洗い出しが行われました。

有事の際に地域災害拠点病院としての役割を果たせるよう、引き続き訓練を行っていきます。

活動報告 世界糖尿病デーイベントを開催しました(11月14日~11月18日)



今年度も世界糖尿病デー(11月14日)に合わせて1階外来受付にて1週間の展示を行いました。今年の世界糖尿病デーのテーマは「アドボカシー 偏見にNO!」となっています。糖尿病啓発のシンボルであるブルーカラーを基調として、看護部・栄養課・歯科・リハビリ科といった様々な職種から糖尿病に関する資料を掲示しました。今回新たにリハビリ科から運動療法についての展示も加え、多くの方々に閲覧し

ていただきました。世界糖尿病デーは世界に拡がる糖尿病の脅威に対応するために2006年に国連で公式に認定されました。世界糖尿病デーは糖尿病の予防・治療・療養について知っていただく大切な日となっています。今回のイベントをきっかけに皆様に糖尿病について関心をもっていただけたのではないかでしょうか。

活動報告 第1回ジャパンメディカルリーグ選抜軟式野球大会で準優勝を収めました。

11月26日(土)から開催された第1回ジャパンメディカルリーグ選抜軟式野球大会で当院野球部が見事準優勝を収めました。

この大会は、医療分野で働く方々を対象とした野球大会であり、全国の強豪14チームが出場しました。当院は、初戦を接戦で勝ち上ると、準決勝では、天皇賜杯、国民体育大会で優勝経験がある和合病院(愛知県)と対戦し、序盤から優位にゲームを進め4対2で降し決勝に進出しました。

続く決勝戦では、互いに譲らないシーソーゲームとなりましたが、終盤の失策による1点に泣き、敗戦となりました。

この大会をもちまして、今シーズンの全日程が終了となります。長きに渡り応援してくださった皆さま、ありがとうございました来シーズンもよろしくお願いいたします。

2回戦 VS 浅井病院(千葉県)	○ 1対0
準決勝 VS 和合病院(愛知県)	○ 4対2
決 勝 VS 佐藤病院(山形県)	● 2対3



準優勝を収めた野球部



栄養課の



私の故郷・岡山県の郷土料理
～まつり寿司～

～まつり寿司の歴史・由来～

岡山を代表する郷土料理といえば「まつり寿司」。酢飯に具を混ぜ込み、ひとつひとつ味付けした魚介類や野菜などの具材を盛り付けるのが特徴です。備前岡山藩の初代藩主・池田光政が命じた「一汁一菜」の俟約令に対抗し、たくさんの具をのせても「一菜」とした庶民の知恵から生まれたとも言われています。



■栄養成分(1人分)
エネルギー……752kcal
たんぱく質……35.8g
脂質……………12.4g
炭水化物……132.9g
塩分……………1.8g

★ポイント★

岡山ではサワラを多く使う料理が多い!

岡山県はサワラの消費量が多く、瀬戸内海のうち岡山県と香川県の間の備讃瀬戸が、かつてサワラの産卵場であったことからサワラ料理が盛んと言われています。



サワラに含む栄養成分

豊富なたんぱく質はもちろん、ビタミン類、ミネラル類、EPA・DHAなど栄養価が高い赤身魚です。

ビタミンD

カルシウムの吸収を促進し、歯や骨を丈夫にする働き

ビタミンD

ナトリウムの排出を促す働きがあるため、高血圧の予防やむくみの解消

DHA・EPA

血流をよくする働き、血圧の上昇や血管のつまりを防ぐ。EPAは体内で合成できないため、魚類で摂取する必要がある。

作り方

- ① サワラに軽く塩をふり、しばらくおいた後、合わせ酢※にいれ、まわりが白くなったら取り出す。★
- ② だし昆布を入れて炊いたごはん全体に、1で使用した合わせ酢※をまわしかけ、すし飯をつくる。
- ③ エビは背ワタをとってゆでる。★
- ④ 穴子はタレ(a)をつけながら照り焼きにする。飾り用を少し残し★、あとは小さく切る◆。
- ⑤ レンコンは飾り用★と小さく切ったもの◆を酢水で煮たあと、酢大さじ1を加え、浸す。
- ⑥ 高野豆腐は戻して(b)を加えて煮る。飾り用を少し残し★、あとは小さく切る◆。
- ⑦ 高野豆腐の煮汁(b)に薄切りにしたんじん、ささがきにしたゴボウを加えて煮る。◆
- ⑧ 戻した干し椎茸を(c)を加えて煮る。★
- ⑨ 割入れた卵に(d)を入れ、うすく焼いて錦糸卵にする。★
- ⑩ 飾り用以外の具(◆)をごはんに混ぜ、器に盛り、飾り用の具(★)、塩ゆでしたサヤエンドウをのせ、完成。

材料[4人分]

すし飯――

●米……………400g ●水……………500cc
●だし昆布……………10cm角(事前に炊いておく)

具――

●サワラ……………4切れ
(※合わせ酢:砂糖大さじ4、塩大さじ1/2、酢大さじ3)
●エビ……………4尾
●穴子……………3尾(a:砂糖・みりん・醤油各大さじ1)
●レンコン……………80g(酢大さじ1)
●高野豆腐……………20g
(b:砂糖大さじ2、塩小さじ1/2、だし汁適量)
●ゴボウ……………1本 ●にんじん……………1本
●干し椎茸……………6枚(c:砂糖大さじ6、醤油大さじ1)
●卵……………2個(d:砂糖小さじ2、塩少々)
●サヤエンドウ……………30g

管理栄養士 大森 早織

薬剤部の豆知識

がん薬物療法認定薬剤師

がん領域の薬物療法に関する高度な知識、技能、実践能力を備え、がん医療提供体制の充実、向上を図ることを理念とし、多職種と連携し患者様に安全で有効な薬物療法を提供することを目的としています。

感染制御認定薬剤師

感染制御に関する高度な知識、技術、実践能力により、感染制御を通じて患者が安心・安全で適切な治療を受けるために必要な環境の提供に貢献するとともに、感染症治療に関わる薬物療法の適切かつ安全な遂行に寄与することを目的としています。

栄養サポートチーム専用療法士

静脈栄養・経腸栄養を用いた臨床栄養学に関する優れた知識と技能を有し、より高度な栄養療法を実現することを目的としています。

今後も自己研磨し、良質な薬剤業務を遂行していきたいと思います。



足利赤十字病院
Japanese Red Cross Ashikaga Hospital

〒326-0843 栃木県足利市五十部町284-1
TEL: 0284-21-0121 FAX: 0284-22-0225 ホームページ <https://www.ashikaga.jrc.or.jp/>
広報誌「風流鯨」Vol.40／令和5年1月31日発行 編集・発行／足利赤十字病院広報委員会